

日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能に関する文化資源学的研究 初年度の成果

坐摩神社権禰宜 橋本裕之

1 はじめに

日本海沿岸部は中世前期に淵源する祭礼芸能が今日でも数多く分布している。とりわけ王の舞や獅子舞は多数の事例を擁する福井県のみならず石川県や富山県にも伝承されており、地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している。本研究は中世前期の祭礼芸能が各種の文化資源として機能している様態を分析する。実際は①教育資源としての祭礼芸能、②地域資源としての祭礼芸能、③学術資源としての祭礼芸能という3つの項目を設定した。初年度の内容は以下のとおりである。

- ①教育資源としての祭礼芸能。福井県三方郡美浜町に伝承されている王の舞のみならず、石川県加賀市で継承されている山代大田楽における王の舞をも取り上げることによって、小学校や中学校における生きた教材として活用する方策を検討した。
- ②地域資源としての祭礼芸能。石川県羽咋市に数多く伝承されている獅子舞は、中世前期の祭礼芸能に淵源すると考えられる事例がいくつか見られるが、いずれも地域社会において紐帯として再評価されている現状を調査した。また、羽咋市歴史民俗資料館の企画展「羽咋の能登獅子」のみならず、中世前期の祭礼芸能に関連したテーマを扱う美術館・博物館・資料館の展示についても調査した。一方、2022年に復活した福井県小浜市奈胡の王の舞を地域社会における紐帯として発展させる過程についても調査した。
- ③学術資源としての祭礼芸能。福井県福井市と越前市に伝承されている獅子舞の現地調査を実施して、中世前期の祭礼芸能という視座に依拠しながら学術的な価値を検討した。また、中世前期の祭礼芸能の痕跡を色濃く残しており本研究にも深く関連する事例として、東京都三宅村と三重県鳥羽市に現存する王舞面に注目することによって、かつて伝承されていた王の舞の具体的な様相について調査した。

福井県・石川県・富山県の北陸3県は浄土真宗の影響が強いため個性的な民俗があまり見られないと考えられてしまいがちであるが、実際は中世前期の祭礼芸能に関する痕跡が数多く残されている。本研究はこれまで看過されてきた日本海沿岸部の芸能文化がはたす役割を再評価するという意味において、新規性、萌芽性、独創性を十二分に持っていると考えている。日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能が地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している消息を描き出すことによって、こうした祭礼芸能を各種の文化資源として評価した上で実際に活用する方法の可能性を提案することができる。したがって、学術的な成果のみならず社会的な活動に発展する実践的な効果が期待される。以下、①～③についてくわしく報告しておきたい。

2 教育資源としての祭礼芸能

福井県三方郡美浜町に分布する王の舞は、彌美神社・宇波西神社・織田神社という三つの祭礼に奉納されており、いずれも美浜中央小学校・美浜西小学校・美浜東小学校の祭礼学習において教育資源として活用されている。実際は申請者が長年にわたって講師として各小学校に出向いて、王の舞や獅子舞に代表される中世前期の祭礼芸能が持つ意義について講義しており、こうした祭礼芸能が地域愛を涵養する手がかりとして重要であることを確認している。だが、新型コロナウイルス感染症が拡大した結果として当該の祭礼を斎行することができていない現在、小学校における祭礼学習もきわめて厳しい状況に置かれている。美浜町教育委員会や美浜町歴史文化館とも討議を重ねながら、今年度は彌美神社と宇波西神社の王の舞を教育資源として活用する方法に関する現地調査を実施した。そして美浜西小学校において、宇波西神社の王の舞のみならず校区に伝承されている各種の祭礼芸能や年中行事をも取り上げた祭礼学習を実施することができた。

一方、石川県加賀市山代温泉で継承されている山代大田楽は、申請者を含めた数名の芸能史研究者が学術的な知見に依拠しながら創作した大田楽を移植したものであるが、幸いにも長年にわたって活発に活動している。こうした現状を念頭に置きながら、山代中学校において山代大田楽に登場する王の舞・田楽・獅子舞を取り上げた講演を実施することによって、山代大田楽を小学校や中学校において生きた教材として活用する方策を検討した。



美浜中央小学校における祭礼学習

山代中学校における講演

3 地域資源としての祭礼芸能

石川県羽咋市に数多く伝承されている獅子舞は、中世前期の祭礼芸能に淵源すると考えられる事例がいくつか見られる。初年度は羽咋市に多数分布する獅子舞の全体的な状況を把握するべく、羽咋市川原町に鎮座する羽咋神社の祭礼と羽咋市兵庫町に鎮座する兵庫神社の祭礼で奉納される獅子舞の天狗と獅子について現地調査を実施した。また、羽咋市歴史民俗資料館の企画展「羽咋の能登獅子」を実見して、能登獅子に分類されるいくつかの事例が中世前期の代表的な祭礼芸能である王の舞に淵源する可能性を確認することができた。今年度は台風によって中止されたので実見することができなかったが、石川県七尾市中島町に鎮座する久麻加夫都阿良加志比古神社の祭礼に登場する多数の猿田彦もこうした系譜に位置付けられるものと考えられる。しかも、こうした事例は今日でも、地域社会において

紐帯として再評価されており、中世前期の祭礼芸能が現代社会における地域資源として機能している消息に接近することができた。

また、北陸3県の祭礼芸能に関連したテーマを扱う石川県立美術館・金沢能楽美術館・金沢くらしの博物館・石川県立歴史博物館・能登国分寺展示館・石川県立七尾美術館・和倉温泉お祭り会館・能美ふるさとミュージアム・白山比咩神社宝物館・池田能面美術館・福井県立若狭歴史博物館の展示について調査した。あわせて中世前期の祭礼芸能に関連したテーマを扱う國學院大學博物館・上原美術館博物館・皇學館大學佐川記念神道博物館・鳥羽市立海の博物館資料館の展示についても調査した。

一方、福井県小浜市奈胡に鎮座する阿奈志神社の祭礼に奉納される王の舞や獅子舞は、実際に演じられていた痕跡こそまったくなかったが、幸いにも鼻高面や獅子頭が現存していた。この鼻高面や獅子頭がかつて王の舞や獅子舞に用いられていたことはいくつかの手がかりに照らして確実だったため、申請者も学術的なアドバイスを提供することによって、令和4年（2022）5月に王の舞や獅子舞を復活させることができた。しかも、関係者が復活した王の舞や獅子舞を地域社会における紐帯として発展させる過程についても調査した。



羽咋神社の獅子舞



兵庫神社の獅子舞



羽咋市歴史民俗資料館



和倉温泉お祭り会館

4 学術資源としての祭礼芸能

石川県白山市鶴来日詰町に鎮座する金劔宮のほうらい祭りに奉納される獅子舞、福井県

福井市本堂町に鎮座する高雄神社の祭礼に奉納されるハナオッサマ（天狗）とオシッサマ（獅子）、福井県越前市国中町に鎮座する国中神社の祭礼に奉納されるオシッサマ（獅子）に関する現地調査を実施して、中世前期の祭礼芸能という視座に依拠しながら学術的な価値を検討した。とりわけハナオッサマとオシッサマは従来こそ中世前期の祭礼芸能に関係する事例として考えられていなかったが、王の舞と獅子舞が地域社会に定着して特異な形態に変容した可能性を想定させるものである。

また、中世前期の祭礼芸能の痕跡を色濃く残しており本研究にも深く関連する事例として、東京都三宅村に鎮座する御笏神社と三重県鳥羽市松尾町に鎮座する加茂神社に現存する王舞面に注目することによって、かつて伝承されていた王の舞の具体的な様相について調査した。一方、小松市立博物館に収蔵されている獅子頭はそもそも石川県小松市津波倉町に鎮座する津波倉神社が所蔵するものであり、元亨2年（1322）の紀年銘が認められる。だが、小松市立博物館を訪問したさいは展示されていなかったため、実見することができなかった。また、学術資源としての祭礼芸能に関する文献を収集するさいは、石川県立図書館・早稲田大学図書館・福井県立図書館を利用した。



高雄神社のハナオッサマとオシッサマ



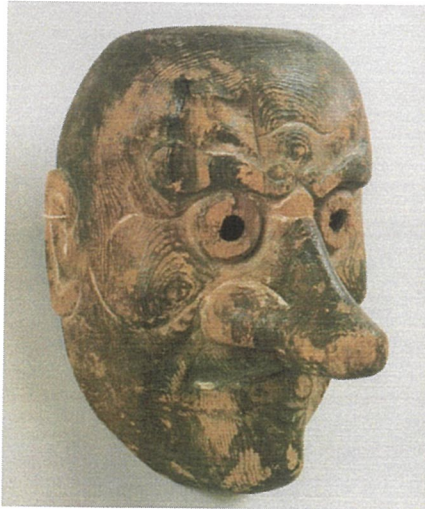
国中神社のオシッサマ



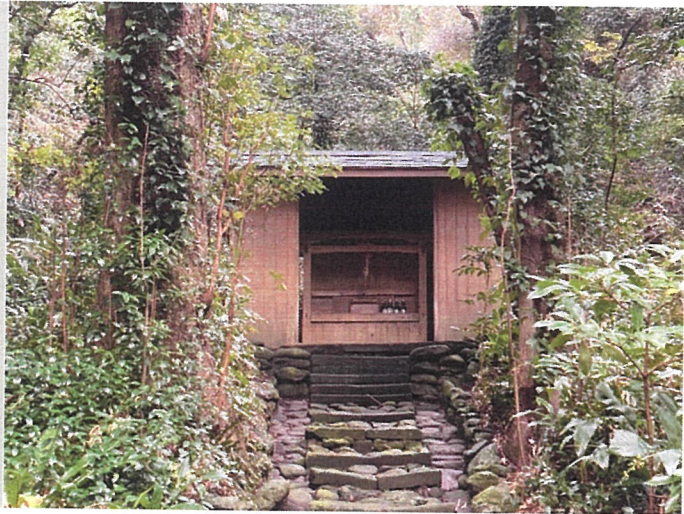
加茂神社の王舞面



取材風景



御祭神社の鼻高面



御祭神社

5 おわりに

今年度に実施した現地調査は福井県と石川県が中心であり、富山県で調査する機会を設けることができなかった。だが、これは富山県における現地調査が遅れていることを意味しない。実態はむしろその反対である。申請者は従来も富山県氷見市に数多く伝承されている獅子舞に関する2本の論文を発表しており、その内容を発展させるべく来年度以降に現地調査を予定している。また、富山県射水市に伝承されている牛乗り式に関しても、本研究の期間に先立って現地調査を実施しており、その成果は来年度に予定している現地調査の成果をも加味して2本の論文として発表する予定である。

以上、本研究は日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能、とりわけ福井県・石川県・富山県に数多く伝承されている王の舞や獅子舞が地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している消息を描き出すことをめざしている。実際は①教育資源としての祭礼芸能、②地域資源としての祭礼芸能、③学術資源としての祭礼芸能という3つの項目を設定することによって、こうした祭礼芸能を各種の文化資源として評価した上で、実際に活用する方法の可能性を提案することができるだろう。したがって、本研究は学術的な成果のみならず社会的な活動に発展する実践的な効果が期待されるはずである。